vinetur

ウクライナ、2026年のワイン輸入額は輸出額の約26倍

10月までの輸入額は1億6,671万ドル。戦時下でワイナリーへの圧力が強まるなか、ブドウ畑の面積は40％縮小

2026年11月18日（水）



ウクライナは2026年1～10月、輸出額の約26倍に相当するワインを輸入した。戦争が続くなか、国内ワイン産業が圧力にさらされており、同国市場が依然として海外からの供給に大きく依存していることを示している。

AgroTimesは11月17日火曜日、Slovo i Diloが公表したデータを引用し、ウクライナが2026年1～10月に輸出したワインの金額は646万ドルだったと報じた。同じ期間の輸入額は1億6,671万ドルに上った。

年初からの10カ月間でウクライナ産ワインを最も多く購入したのはルーマニアで、購入額は248万ドル、輸出総額の38.48％を占めた。次いでモルドバが72万ドル（11.1％）、ポーランドが50万ドル

（7.8％）だった。

最新の数値からは、ウクライナ産ワインの輸出が戦前の水準を大きく下回っていることが分かる。ロシアによる全面侵攻が始まる前の2021年、ウクライナのワイン生産者は1,645万ドル相当の製品を輸出した。その後、輸出額は2022年に866万ドルに落ち込み、2023年は884万ドル、2024年は1,123万ドルに増加し、2025年は888万ドルとなった。

AgroTimesはまた、ウクライナのブドウ畑の面積が過去10年間で40％縮小したと報じた。これは、戦争による直接的な混乱にとどまらない、国内生産のより根深い構造的な問題を示している。ブドウ畑の縮小は生産量を制限し、海外需要があっても地元生産者が輸出量を回復することを難しくしている。

一方、ワイン輸入は全面侵攻開始直後の落ち込みから完全に回復した。ウクライナのワイン輸入額は2021年に2億1,542万ドル、2022年に1億1,785万ドルだった。2025年には戦前の水準を上回る2億2,180万ドルに達した。

2026年1～10月、ウクライナ市場への最大の供給国はイタリアで、輸入総額の46.79％に当たる7,801万ドルを占めた。フランスからの輸入額は2,736万ドル（16.41％）、スペインからは2,043万ドル（12.25％）だった。この3カ国で、期間中のウクライナのワイン輸入額の4分の3超を占めた。

こうした貿易の構図は、ワイン輸入国としてのウクライナと、輸出国としての同国の規模の大きな差を浮き彫りにしている。飲料業界にとって重要なのは、ウクライナの卸売業者、小売業者、ホスピタリティ事業者が消費者需要を満たすため、主に欧州の生産者に頼っている一方、国内ワイナリーは生産能力の低下と戦時下の市場環境による制約を受けている点だ。

輸出先の上位国も時とともに変化している。AgroTimesによると、2025年には米国がウクライナ産ワインの主要輸出先の上位3カ国に入り、2022年はドイツ、2021年はカザフスタンが同じ順位を占めた。これに対し2026年は、東欧の近隣市場が購入額の最大の割合を占めており、ウクライナの生産者が海外販売の維持を目指すなか、より近い市場への依存を強めていることがうかがえる。